

住まいは文化
先人たちが遺してくれた住まいづくりの知恵

第21回 静岡県熱海市重要文化財 旧日向別邸
ブルーノ・タウト「熱海の家」



社交室の天井には煤竹(すすだけ)が渡され、多数の白熱電球が、竹で編まれた鎖を用いて吊り下げられている。

洋間上段の正面には陳列用のガラス戸棚が備えられ、天井は間接照明を意識した設計に。

修復進むドイツのブルーノ・タウト旧宅

タウトの故郷ドイツに残る旧宅の保存活動が、お茶の水女子大学名誉教授田中辰明氏により推進。ドイツのブランデンブルグ州により修復が進められる予定。写真はタウト旧宅の居間。旧日向邸の洋間と色使いや階段などが似ている。



写真左 / 日本間の西側にあるベランダには木製の部戸(しとみど)が設置され、床には瓦が敷き詰められている。写真右 / 日本間は洋間同様、段差のある北側を、寸法・形状の異なる階段として利用。

ブルーノ・タウト Bruno Taut

(1880-1938)
ジャポニズム、アールヌーボーを通して日本に関心を持つ。代表的な作品に「鉄の記念塔」「ガラス・パヴィリオン」や「ブリッツのジードルンク」(住宅団地)などがある。1933年来日し、群馬県高崎市に滞在。桂離宮に日本の伝統美を見出し、数寄屋造りが近代建築に通じる近代性を評価。その後多くの日本人建築家に影響を与えた。

※ DOCOMOMO (ドコモモ)

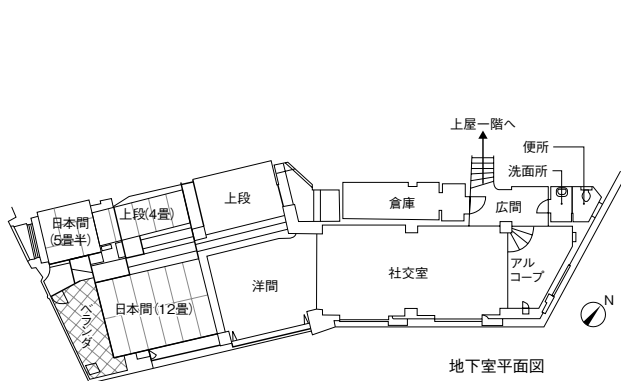
「Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement」の略称。「近代建築に関する建物、敷地、環境の資料化と保存」のための国際組織。

「桂離宮」を偲ばせる伝統的建築と革新的な日本間の創造
日本間は12畳の書院座敷と上段4畳、北端の5畳半と、地下室の段差を巧みに利用した設計になっており、引き違い襖戸の上部は箎(おさ)欄間となっています。柱敷居・鴨居等の造作材は檜材を用いて、べんがら色の漆塗りが施されています。天井は色調の濃い神代杉の竿縁天井、壁は

うぐいす色の土壁と随所に伝統的な日本建築の要素を採り入れています。日本間は洋間より一段高く、奥の戸袋や襖のしつらえなど、タウトが影響を受けた「桂離宮」の佇まいを連想させる造りになっています。日本間も洋間同様、階段に座ったり、畳に寛いだりして眺望を愉しむことを想定しており、タウトが提唱した伝統的な日本建築と現代建築の融合の形がここにあります。

洋間の内壁は、ワインレッドの絹布を用いた織物壁で、深く上品な色合いとガラス窓から通る光が調和して見事です。中央部に位置する階段は、海への眺望を意識して幅広に造られ、ここに座って全面開放の開口部から映画のスクリーンのように相模湾、初島を眺めることができます。このしつらえはタウトの故郷ドイツに残る旧宅の居間にもよく似ています。

うぐいす色の土壁と随所に伝統的な日本建築の要素を採り入れています。日本間は洋間より一段高く、奥の戸袋や襖のしつらえなど、タウトが影響を受けた「桂離宮」の佇まいを連想させる造りになっています。日本間も洋間同様、階段に座ったり、畳に寛いだりして眺望を愉しむことを想定しており、タウトが提唱した伝統的な日本建築と現代建築の融合の形がここにあります。



建物全体が工芸品
洋間から日本間へ連続する空間
旧日向別邸は熱海駅に近い高台にあります。熱海は大正時代末期から、箱根、軽井沢とともに日本最初の別荘地として開発が進み、旧日向別邸はこの時期に建てられた代表的な別荘建築に数えられます。タウト設計の地下室は、斜面の土留めにしたRC造の人工地盤に造られ、室内は大きく分けて、社交室、洋間、日本間の3つのゾーンで構成。いずれのゾーンからも相模湾の眺望が楽しめます。階段を降りて入る社交室は舞踏室・ピンポン室とも呼ばれ、明るく開放的にしつらえられています。隣接する洋間はモダンで



写真右 / 工芸品に竹を多用したタウトは、階段の手すりにも曲げて垣根風に仕立てた竹を用いた。写真左 / 階段正面に位置する開口部には棕櫚縄(しゅろなわ)で繋ぎ合わせた竹の堅格子がはめられている。

和・洋が融合したインテリアに今も残るタウトのこだわり
相模湾を見渡す静岡県熱海の高台に1935(昭和10)年、貿易商が建てた木造2階建ての別荘です。翌年、建築家ブルーノ・タウトが離れの地下室部分の設計を担当。日本に現存する唯一のタウト建築として知られています。桂離宮など日本の伝統的な建築文化を愛したタウトは、「日本建築の美」を世界で紹介。日本の近代化にも大きな影響を与えました。別荘は長年、民間の保養所として利用されてきましたが、2004(平成16)年に熱海市の所有となり、現在は一般公開されています。2003(平成15)年にはDOCOMOMO(※)の選定建築物にも選ばれ、改めてタウトが遺した住空間へのこだわりと美意識が見直されています。



上屋は、東京銀座和光や東京国立博物館などを手掛けた渡辺仁が設計。